
短編小説の塊

青いヌメヌメした生き物

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編小説の塊

【Nコード】

N3981R

【作者名】

青いヌメヌメした生き物

【あらすじ】

1ページで終わる短編小説を書いています。

とりあえず書きたいジャンルを書いていく感じです。

鐘の音（前書き）

メモ帳に書くつもりだったので短いです。

鐘の音

ゴーンゴーンゴーン

教会の鐘が3時を告げる。小さな村なのでその鐘の音は村全体に響き渡る。

そんな小さな村の小さな教会に神に許しを請う少女がいた。

「神よお許し下さい醜い私をお許し下さい。神よお許し下さい醜い私をお許し下さい・・・」

少女は昨夜から呪文のように何度も繰り返している。

神父である私は何度も家に帰るように声を掛けようとしたが少女はその度に狼を見るような脅えた目で私を見てくる。

諦めた私はただ彼女を遠くから見守る事しか出来なかった。

・・・何時間経つただろう。彼女は相変わらず泣きながら呪文を唱えている。いつの間にか瞼が重い。

私も彼女ほど若くはないので彼女よりも先に眠ってしまった。

目が覚めると私は花畑にいた。先ほど泣いていた彼女も一緒だ。彼女は私にキスをした。
完。

鐘の音（後書き）

一応わかるように書いたつもりですが終わり方の意味がわからない方がいましたら解釈も書こうと思います。

僕と空（前書き）

この小説の才チわかりますか？

僕と空

今日も空が紅い。

そのままでも綺麗なのに空は紅くなる。

どうして紅くなるんだろう？

知りたがりの僕は真っ赤な空を見つめる。でも僕が見つめると空はもっと紅くなる。

空はくもが嫌いみたいだ。くもを見るといつも泣いてしまう。

空が泣くと僕は笑ってしまう。なぜなら空の泣き顔が綺麗だから。

僕が笑うと空はやっぱり紅くなる。

そんな真っ赤な空を抱き締める。腕の中で暴れる空を無理矢理抱き締める。

段々と抵抗が小さくなる空を一生守ると決めた。
完。

僕と空（後書き）

書いてて恥ずかしくなりました。

最後のチャンス(前書き)

チャンス

それ以上は求めない

最後のチャンス

頼むもう一度だけチャンスをくれ。

俺はチャンスをも3回も逃してしまった愚かな男だ。

そんな事はわかってる、なんて馬鹿にされてもいい。

それでももう一度だけチャンスをくれ。

星の綺麗な夜、俺は生まれて初めて神にすぎた。

しかし神は最後のチャンスなんてくれなかった、愚かな俺を見捨てた。

俺は神を怨んだ。神が俺を見捨てるなら俺は悪魔に魂を売ってやる。なんとも情けない話だ。神は俺を救う義務なんてないのに、神は3回もチャンスをくれたのに。俺は神を怨んだのだ。

神にすぎたあの日に似た星の綺麗な夜、俺は自責の念に駆られた。

数日後、俺は幸運にもチャンスを手に入れた。

俺の早とちりだった。

神は愚かな俺を見捨てなかったのだ。いや、悪魔が助けたのかもしれない。

どちらにしろ俺はチャンスを手に入れた。

きつとこれは最後のチャンスだ。絶対に成功させてやる。

最後のチャンス(後書き)

俺、頑張れ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3981r/>

短編小説の塊

2011年10月8日11時32分発行